2017年5月20日（土）　インド大使館　ウパニシャッド（第16回）

**≪ウパニシャッドの勉強の目的（プラヨージャナㇺ）≫**

ウパニシャッドの勉強がどうして必要か（プラヨージャナム）を説明しています。最終的に悟ることが勉強の目的ですが、**悟りの結果**が何であるかを知れば勉強の目的をよりよく理解することができます。

**＜Tarati shokam Ātmavid（タラティ・ショーカㇺ・アートマヴィッド）＞**

前回説明しましたが、いろいろな種類の苦しみ、悲しみがありますが、悟りますと**すべての苦しみ、悲しみがなくなります**。

**＜chidyante sarva-saṃsayāh（チッデャンテ・サルヴァ－サㇺシャヤーㇵ）＞**

前回説明したように、（悟りの結果）**すべての疑いがなくなります**。何が疑いかについても前回お話ししました。例えば、自分についての疑い、神様についての疑い、宇宙についての疑い、それから神様と私と宇宙の関係についても疑いがあります。

自分についての疑いは、例えば、私の本性は何ですか、人生の目的は何ですか、どのようにその目的を満足しますか、満足するための障害は何ですか、自分の本性を理解しますとその結果は何ですか、ということです。

宇宙についての疑いは、例えば、どなたがこの宇宙をつくりましたか（創造者はどなたですか）、この宇宙をどのようにつくりましたか、それからこの宇宙の基礎は何ですか、この宇宙の本性は何ですか、ということです。

科学者もいろいろ調べています。哲学者、ヴェーダーンタの聖者も同じ質問について調べています。そして結果が出ています。その結果がウパニシャッドです。それでウパニシャッドを勉強して実践しますとその疑いはなくなります。

神様についての疑いは、例えば、神様は何でしょうか、神様の本性は何でしょうか、神様をどのように悟りますか、それから神様と宇宙と私との間にどのような関係がありますか、ということです。これらの諸々の疑いはウパニシャッドの勉強でなくなります。我々は本当に理解することができます。

**＜Vidyate hridaya-granthi（ヴィッデャテ・フリダヤ－グランティ）＞**

**結び目が消えます**。その結び目は何と何との結び目でしょうか。ヴィディヤーとアヴィディヤー、すなわち「知識」と「無知」との間に結び目があります。我々の心の中には知識もあります。全部が無知ではないです。しかし、すべてが知識というわけではなく無知があり結び目をつくっています。

その**結び目を切ります**。Vidyate hridaya-granthi chidyante sarva-saṃsayāh（ヴィッデャテ・フリダヤ－グランティ・チッデャンテ・サルヴァ－サㇺシャヤーㇵ）、すなわち、「（知識と無知との）結び目を切り、すべての疑いがなくなる」は有名な聖句です。

**＜Kshīyante cha-asya-karmāni（クシーヤンテ・チャッスィアカルマーニ）／tasmin drishte parābare（タスミン・ドリシュトゥエ・パラーバレ）＞**

これは前回説明しませんでしたがとても有名です。Kshīyante（クシーヤンテ）は「だんだん減っている」という意味です。何が減っていますか。cha-asya-karmāni（チャッスィアカルマーニ）、「すべてのカルマ」が減っています。

tasmin（タスミン）は「そのもの」、drishte（ドリシュトゥエ）は「見て、理解して」という意味です。parābare（パラーバレ）は「最高のもの、最高の存在」という意味で「ブラフマン」のことです。tasmin drishte parābare（タスミン・ドリシュトゥエ・パラーバレ）は「その最高の存在であるブラフマンを見て、理解して」という意味です。

Kshīyante cha-asya-karmāni（クシーヤンテ・チャッスィアカルマーニ）／tasmin drishte parābare（タスミン・ドリシュトゥエ・パラーバレ）は「**その最高の存在であるブラフマンを理解すればすべてのカルマはなくなります**」という意味です。

**＜カルマについて＞**

今の話しの中に出てきた「**カルマ**」とは何でしょうか。最近「カルマ」という言葉を皆さんがよく使っています。例えば、私は前世にちょっと悪いカルマをしたかもしれないのでその結果で今生は困っています、というようなことを言っていますね。

例えば、カルマ・ヨーガがあります。カルマの訳語は「働き」です。カルマ・ヨーガは「働きのヨーガ」です。前後関係でカルマの意味は「**働き**」と「**働きの結果**」です。皆さんいつも覚えておいてください。

哲学では「働き」と「働きの結果」とを併せて「カルマ」を使っています。普通、カルマは「働き」のことです。例えば、「カルマの法則」とは、カルマとカルマの結果の法則です。その関係で３つのカルマの結果が出ています（後述）。そのカルマの中には良いカルマと悪いカルマの両方が入っています。皆さんそれも覚えてください。

良いカルマと悪いカルマと言えば皆さん自分でわかりますね。或る仕事、或る働きは道徳的であり、或る仕事、或る働きは非道徳的です。また、カルマには肉体的な働きだけではなく考えも含まれます。良い考え、悪い考え、良い働き、悪い働き、これらは全部カルマです。

皆さん心で「考える」ことはカルマではないと思うかもしれませんがそんなことはないです。例えば、もし我々の心の中に怒りや嫉妬がありますと、その結果で我々は幸せができないです。肉体的なカルマの結果だけではなく「思いの結果」もあります。

我々の心の中に怒りがたくさんあるとします。そうしますとイライラの感じが出ないですか。その結果で人間関係も悪くなります、苦くなります。それで自分の苦しみ、悲しみが出ます。仕事も集中してできないです。それは「思いの結果」ではないですか。

本当は（外に）出してなくても心の中にたくさん溜まっています。外はスマイル、中はイライラ（笑い）。けっこうありますね、そのような見せかけ。その結果は絶対出ますね。スマイルしても心は本当は悲しみ、苦しみの状態であり、幸せ、穏やかな状態ではないでしょう。心の中にある嫉妬、怒り、暴力、それもカルマです。

包括的な意味で感覚の仕事もカルマです。目で見ます、それもカルマです。耳で聞きます、それもカルマです。私は話していますが、あなたは静かに座っています。だから何もカルマしていないというわけではありません。あなたは感覚が働いていませんか。肉体的ではないけれど、感覚的でも働きがあります。感覚のレベルでの働きも包括的な意味でカルマです。

それからまばたきも働きです。息を吸います、吐きます、それもカルマです。包括的な意味で全部カルマです。それらの結果があります。例えば、息を吸います、息を吐きます。そして我々は生きています。そうしないと生きられませんね。そのように絶対に「カルマの結果」があります。

我々について、人生について、３つの種類のカルマがあります。

１）**Sanchita（サンチター）**

２）**Prārabdha（プラーラブダ）**

３）**Kriyamāna（クリヤマーノ）**

哲学の基礎的なアイデアの一つが「**カルマ**」です。基礎的なアイデアは覚えてください。そうしないと進めないです。理解のレベルが幼稚園のままになってしまいそこから上がりませんから頑張って覚えてくださいね。

Sanchita

 Prārabdha 今生　　　 Kriyamāna

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・今生で苦楽を経験する部分

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・天国・地獄を決定する部分

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・残りの部分（Sanchitaへ）

［バガヴァッド・ギーター2016-05-07-大使館講話テキスト参照］

カルマの一つは**サンチター・カルマ（Sanchita karma）**ですね。サンチターは溜まった（蓄積された）カルマの結果ですが、どのようにして溜まったのでしょうか。我々は、前世の、前世の、前世の、前世の・・・というように何回も生まれています。サンチターは生まれる度に蓄積されてきたカルマの結果の全体です。今生から始まったものではないです。

キリスト教とヒンドゥー教とではこの点が違っています。キリスト教の教会のアイデアではカルマは今生から始まり今生だけのことです。そして今生でのあなたのカルマの結果で天国に行くか地獄に行くかが決まり一回行きますと永遠にそこにとどまります。天国に行きますともちろん良いですけれど地獄に行きますとしょうがない、それでずっと。

もちろん他のアイデアもありますが、キリスト教の教会のアイデアはそうです。しかし本当はそうではないです。イエスもそのことを言ってないです。それは教会（だけ）のアイデアなのです。

話を戻します。サンチターは溜まったカルマです。これはヒンドゥー教と仏教で同じ考えです。そして**サンチター・カルマの一部分で今生はできています**。その今生をつくっているカルマを**プラーラブダ・カルマ（Prārabdha karma）**と言っています。

プラーラブダ・カルマ（サンチター・カルマの一部分）で、いつ生まれ、どこに生まれ、だいたいどれくらい苦しみ、悲しみがあり、いつ亡くなるか（今生）が決められています。

ヒンドゥー教徒はいつもその言葉を使っています。困ったときやたくさんの苦しみ、悲しみがあるときは「おお私のプラーラブダです」と言っています。ほとんどはネガティブ（否定的）な意味で使っています。肯定的な意味ではないです。

このように今生はプラーラブダ・カルマでできていますが、今生でまたいろいろと**新しいカルマ**をけっこうやります。毎日毎日お金を稼いだり人間関係で道徳的、非道徳的なことをします。それもカルマです。その種類のカルマを**クリヤマーノ・カルマ（Kriyamāna karma）**と言っています。

これによって**新しいカルマの結果**が出ています。この考えはとても面白いですし論理的です。そして最近たくさんのキリスト教徒も信じています。キリスト教徒ですけれどもヒンドゥー教の「カルマの法則」を信じています。

［マハーラージが３種類のカルマについて正しく理解できたかを参加者に質問して確認］

サンチター、プラーラブダ、クリヤマーノ、これらをカタカナで書いて発音して覚えてください。**サンチター**は前世までに蓄積されたカルマ全体、**プラーラブダ**はサンチターの一部分であって今生を形成しているカルマ、**クリヤマーノ**は今生で新しく作られたカルマです。

ここでクリヤマーノ・カルマの結果を考えてみます。そのカルマの結果の一つで我々は楽しみと苦しみを経験します。例えば、食べ過ぎるとお腹がこわして我々は苦しみます。それでそのカルマの結果は終わりました。また、空腹のときにご馳走を食べて満腹になりました。それで我々はそのとき楽しみます。

このようにクリヤマーノ・カルマの結果で、我々は生きている間に苦楽を経験します。ですけれどもそのカルマの結果の全部が今生で経験されて終わるわけではありません。経験されなかった部分の一部によって天国に行くか地獄に行くかが決められます。

ヒンドゥー教でも仏教でも天国、地獄があります。けれどそれは永遠のものではありません。良いカルマと言う場合、それはクリヤマーノのことです。良いカルマの結果で天国、悪いカルマの結果で地獄に行く。そしてそれが終わったらまた（今生に）戻ります。

面白いのはクリヤマーノの或る部分はそれでも終わらずに残ります。今生で毎日毎日朝から晩までたくさん仕事（カルマ）をしています。そのクリヤマーノ・カルマの結果の一部分で苦しみ、楽しみを経験し、またもう一つの部分で天国、地獄が決まります。

ですけれどもクリヤマーノ・カルマの結果はまだ残っています。その「残りの部分」はサンチター・カルマに足されます（供給されます）。銀行口座のようです。それでサンチター・カルマは終わらなくなっています。そしてこれで困っています（笑い）。

カルマの結果は無限のようです。終わらないです。終わらないですから何回も死んでます。サンチター・カルマがある間は絶対に輪廻が出ます。そのようにしてサンチター・カルマはずっと続きます。それが一つの法則です。

しかし解脱もあります。さきほど言いましたね、「**すべてのカルマはなくなります**。**ブラフマン、自分の本性アートマンを理解しますと悟りますと**」（tasmin drishte parābare（タスミン・ドリシュトゥエ・パラーバレ）／Kshīyante cha-asya-karmāni（クシーヤンテ・チャッシィアカルマーニ））。

すべてのカルマは例えばシード（種）ですね。種の大きな貯蔵庫のようにサンチター・カルマの中にはとてもたくさんの種が入っています。もしあなたは種を植えますと植物が絶対に出ます。しかしその種を燃やします。燃やしてから植えると植物は出ますか。出ませんね。

そのイメージです。**悟った後は新しいカルマは出ません**。仕事をしても新しいカルマは出ません。どうして新しいカルマは出ないのでしょうか。

私と身体を同一視しますと私は働いているというアイデアが出ます。しかし、もし私と身体を同一視しなければ、肉体が仕事をしていますが、私は肉体ではないです。感覚は働いていますが、私は感覚ではない。その感じで、身体・感覚と私は別々です。私は**アートマン**ですね。識別して無関係の状態が出ますと、働いても働いてないです。

バガヴァッド・ギーターの中にとても面白いアイデアがあります。カルマとアカルマ。活動（カルマ）がいつ無活動（アカルマ）になりますか。それは悟りのときです。身体は働いていますけれど私は働いていない、それが悟りの状態です。（『シュリーマッド・バガヴァッド・ギーター』第４章第１８節参照）

**悟りますと新しいクリヤマーノ・カルマが出ないです**。そして悟りましたから**すべてのサンチター・カルマは燃やされます**。だからまた生まれることはありません。生まれるのは、一つはクリヤマーノ・カルマ、もう一つはサンチター・カルマの結果によるものですが、悟りますとサンチター・カルマは燃やされます。

ブラフマンの知識が出ます（ブラフマンを理解します）と、私はサンチター・カルマと無関係になります。サンチター・カルマと関係しているのは身体、心、自我ですが、悟りますと私は自我でもなく身体でもなくなりますからカルマもなくなります。

ですが、解脱の後にすぐには亡くならずどうして生きていますか。それはプラーラブダ・カルマの結果で生き続けています。プラーラブダ・カルマでいつ亡くなるかがすでに決められていましたからそこまで生きています。

これは次の実践的なたとえでよく説明できます。例えば、あなたは車を運転しています。車はエンジンで動いています。途中でブレーキをかけずにエンジンだけを停止します。このポイントが大事です。この状態を想像できますね。そうしますと車はどうなりますか。エンジンを止めてももうちょっと先まで行きますね。これをモメンタム（勢い、惰性）と言います。

プラーラブダ・カルマの結果でモメンタムが出ます。解脱できましたがモメンタムでまだ生きています。この車のたとえで理解できましたか。プラーラブダ・カルマで、いつまであなたは生きます、いつ死にますは前に決められていました。

**＜Etad viduh amritaste bhavanti（エータッド・ヴィドゥㇷ・アムリタステ・バヴァンティ）＞**

これも悟りの結果です。Etad viduh（エータッド・ヴィドゥㇷ）は「そのものを見て、理解して」という意味です。「そのもの」とはブラフマンのことです。ウパニシャッドの勉強をして「**ブラフマンを悟ります**」とどんな結果が出るか（プラヨージャナム）を示しています。

amritaste（アムリタステ）のアムリタは「不死」という意味です。ムリタは「死ぬ」を意味しその否定形です。bhavanti（バヴァンティ）は「～になる」ですから、amritaste bhavanti（アムリタステ・バヴァンティ）で「**不死になる、不死を得る**」という意味です。

ムリタの意味は「死ぬ」ですが死にますとまた生まれます。死にます、生まれます、これが繰り返されます。しかし、求道者は**ブラフマンのことを理解して悟って不死（アムリタ）になります**。

アサトーマーサドガマヤ／タマソーマージョーティルガマヤ／ムリットョールマー**アムリタ**ㇺガマヤ、これは勉強のときに唱える「普遍の祈り（Universal Prayers）」ですね。覚えていますか、皆さん。この「ムリットョールマー**アムリタ**ㇺガマヤ（死から**不死**へ導いてください）」のアムリタと同じアイデアです。

それでは何のレベルで不死になるのでしょうか。例えば、身体のレベルで不死にはなりませんね、身体は絶対なくなります。それから粗大、精妙なものも最後に全部なくなります。これらはなくなりますが、**アートマンのレベルで、魂のレベルで不死になります**。私の本性は魂です。

魂が私の本性ですが、我々は魂を私と同一視しないで、いつも身体を私と同一視しています。身体を私と同一視していますから身体がなくなりますと私もなくなります。そのアイデア（考え）が出ています。

身体がありますとそこから欲望が出ます。私は身体、私は心、私は自我、それが本当は欲望の源ではないですか。私は身体ですから私は食べたい、飲みたい、楽しみたい。感覚のレベルと肉体のレベルのいろいろな欲望が出ます。欲望の源は、私と身体を同一視していることにあります。

そうしないで**私とアートマン（魂）を同一視**します。魂は絶対の存在、絶対の知識、絶対の至福でしょう。純粋な意識です。それを同一視しますと欲望は出ないです。私は身体を同一視していますから欲望が出ていますが身体を同一視しなければ欲望は出ないですね。

そうしますと我々はアムリタ（不死）になります。それはどのようにしてできますか。ウパニシャッドの勉強をしてそれができます。生きている間でも解脱することができます。ジーヴァンムクタ（jīvanmukuta）のアイデアがありましたね（バガヴァッド・ギーター2016-04-02-大使館講話テキスト参照）。

そのように生きている間でも不死になることができます。それはとても至福の状態です。例えば、仕事しても苦しみ、悲しみがありますけれどもそれを同一視していないです、無関係になります。身体の病気がありますけれども私の病気ではない。病気は身体ですが、身体の苦しみ（suffering）であって、私の苦しみではないでしょう。

シュリー・ラーマクリシュナに同じ状態がありましたね。シュリー・ラーマクリシュナには喉のがんがありました。知っていますね。とてもとても痛い、食事もできない。いつも喉から血が出ていました。それくらい苦しみのときもサマーディに入られていました。

普通では信じられないです。どうしてサマーディに入ることができました。なぜならその病気の状態にあってもアートマンを同一視されていたからです。身体はそれくらいの状態でしたが、アートマンのレベルでサマーディです。それが一つの例です。これでプラヨージャナムの説明が終わりました。

**≪カタ・ウパニシャッド≫**

これからカタ・ウパニシャッドが始まります。カタ・ウパニシャッドは哲学の本、聖典の本ですけれども、物語を使って始まっています。どうして物語を使っていますか。

**＜物語で哲学を説く理由＞**

皆さんが物語を好きだからです。哲学を作る人もそのことを知っています。哲学だけ教えてもあまり面白くない。ですけれども教えたいですから物語を使って教えます。では、なぜ皆さんは物語を好きなのでしょうか。これは基本的な質問です。（参加者から、「面白いから」などの回答がありました）

私は今日ここへ来るとき電車の中でそのことを考えていました。面白いからという回答がありましたがどうして面白いのでしょうか。一つは興味ですね。皆さんの基礎的な性格の一つが「知りたい」だからです。**知りたいという欲求**です。

なぜ皆さんは雑誌、新聞、テレビなどを利用してどんな出来事があるかを知りたいですか。それは知りたい欲求がとても基本的な願いだからです。だから興味があります。

物語が好きなもう一つの原因は、皆さんは**想像が好き**だからです。心は想像が好きです。物語には想像がたくさんあります。それで物語を好きになっています。

もう一つの原因は皆さんには**普通には満足させることができない欲望**があるからです。しかし自分ではできないですけれども物語を通じて満足させることができます。それで楽しめます。とても深層心理的（ディープ・サイコロジカル）ですね。

もう一つの原因は皆さんが**いろいろな味が好き**だからです。サンスクリットで味はラサと言います。食事のためにいろいろな味付けをしますね。甘い、辛い、苦いなどありませんか。そしてそれらを混ぜていますね。

我々は食事についていろいろな味が好きです。甘いだけ、苦いだけ、それではないです。辛いのが好きな人が苦いのも好きなことがあります。インドの食事のことを考えてみてください。いろいろな味が全部入っています。

インドの食事には食べる順番があり例えば最初はニガウリから始まっています。ニガウリは苦いですね。これはアーユルヴェーダと関係がありますね。その後はジャガイモのフライ、油で揚げています。それとマッシュ、例えば、ジャガイモをボイルしマッシュして食べます。

その後は豆のカレー、魚のカレー、卵のカレーなどいろいろです。そしてカレーに使われるスパイスが別々ですからカレーの味も別々です。例えば、ガラムマサラにはたくさんのスパイスが使われています。

その後にチャツネが出ます。チャツネは酸っぱい味と甘い味とを合わせています。次はヨーグルトですがこれは酸っぱいだけ。最後にお菓子、これは甘いだけ。このようにインドの食事の中には全部の味が入っています。

心も同じようにいろいろな味が好きです。例えば、一つの味はヒロイズム（勇敢さ、勇気）、例えば、侍スピリットです。テレビで侍ドラマがありますが、なぜ侍ドラマを見たいですか。戦う勇気が好きだからです。

それから悲しみ、それも好きです。トラジディー（悲劇）がありますね。シェークスピアのドラマの中にはコメディー（喜劇）もありますしトラジディーもあります。喜劇と悲劇では全然違いますが、皆さん両方切符を買って、お金を使って、泣くために見に行きます（笑い）。

前から劇（ドラマ）の筋書きを知っていますが行っていっぱい泣きます。泣いていますがやめないで見ています（笑い）。それがラサです。皆さんが好きです。

それから面白いものや笑いも好きですし、ときどきとても怖いものも好きです。怖い物語、例えば、お化けの物語を好きではないですか。日本の書店などでもたくさん売られています。また、クライム（犯罪もの）もたくさん売られています。いろいろな種類の物語でいろいろな味ができます。それで皆さんは物語が好きです。

そして聖典を書く人はそのことを知っています。皆さん例外なく物語が好きです。若い人、子供、お年寄り、女性、男性、みんな物語が好きですから、カタ・ウパニシャッドは最初に物語を使っています。

**＜カタ・ウパニシャッド 第１部第１章（Part One Chapter One）＞**

その物語に入ります。或る聖者ヴァージャシュラヴァス（vājaśravas）はヴァージャシュラヴァ（vājaśrava）の息子です（ヴァージャシュラヴァの名前の意味は、例えば、他の人にたくさん食事をあげる人です）。ヴァージャシュラヴァスは聖者ですけれども本当は悟った人ではないです。

さて、いろいろな目的で家住者も聖者も儀式（ヤッギャー）を行うことができます。例えば、火を用いた火の儀式があります。ヴィッシュワジット・ヤッギャー（Vishwajit yagya）とういう儀式がありますがそれを行うことによって天国に行く願いを満足させます。

ヴァージャシュラヴァスも天国に行きたいという願いがありました。昔は皆さんが天国へ行きたいというやる気を持っていました。最近はそれがないですね。なぜなら天国にあってこの世界にないものがあまりなくなったからです。それで皆さんの天国への興味があまりなくなっています。

私はちょっとからかったように言っていますけれど、今はお金があれば楽しみはこの世界の中でできます。天国に行かなくても大丈夫。昔はできなかったです。昔はそれほど物がなかったですから。そして皆さん天国へ行きたいというやる気がありました。

今はこの世界には楽しみのものがたくさんありますけれど病気もありますね。お金も必要です。天国に行きますとお金はかからないですし病気もないです。天国では病気もなく年も取りません。いつも若い状態です。身体も元気で、楽しみのものもたくさんあり、楽しむ力もあります。やはりこの世界とは少し違いますね。

聖者ヴァージャシュラヴァスは天国に行きたかったのでそのヴィッシュワジット・ヤッギャーを始めることにしました。ヴィッシュワジット・ヤッギャーには一つ条件があります。それは、そのヤッギャーを執り行う専門家（priest）にお布施として自分のすべて富をあげないといけないという条件でした。聖典の中にその条件が示されています。

昔は雌牛が富であり良い種類の雌牛が一番の富と考えられていました。なぜなら雌牛から牛乳、例えば、クラリファイドバター（ギー）が取れますから食事もできます。他のものを買うこともできますし洋服もできます。そのため、雌牛は一番の富でした。

ヴァージャシュラヴァスはとても良い元気な雌牛を持っていましたけれどもそれをお布施にしないでどんな雌牛をお布施にしたでしょうか。とても齢を取った、もう水も飲まない（水を飲む力もない）、草も食べない（消化力もない）、牛乳も出してない、仔牛を作ることもできない、その種類の状態の雌牛をお布施であげました。駄目でしょう（笑い）。

聖典の中にはあなたの富をあげてくださいとはありますが、どんな種類の富をあげてくださいとは書かれていないですから、ヴァージャシュラヴァスはそのような雌牛をあげていました（笑い）。しかし駄目ですね。その種類のお布施をあげますと絶対に天国に行かない、反対に地獄に行きます（笑い）。

ヴァージャシュラヴァスの息子の名前はナチケーター（naciketā）です。ナチケーターはとても若い、例えば、12～13歳くらいです。子供を作る力はまだ出てなかった、そのような若さでした。その種類の若さをクマーラㇺ（kumāram）と言ってますね。ナチケータ―はそのお父さんのやり方を見て気持ちが悪くなりました。

お父さんがその種類の富をあげますとお父さんは絶対に地獄に行きます。ナチケーターは息子ですからお父さんを守らないといけません。

カタ・ウパニシャッドに書かれているśraddhāviveśa（シュラッダーヴィヴェーシャ）のśraddhā（シュラッダー）の意味は「尊敬」です。お父さんがそのようなことをしてもそれはお父さんのカルマであって私には関係ないと考える息子もいますね。お父さんが非道徳なことをしても何も気にしない、反対しない。そのような息子は本当はお父さんを尊敬していないです。

ナチケータ―はその種類の息子ではなかったです。「尊敬」にはお父さんを守る、それから自分に自信がある、などたくさんの意味が含まれています。そしてナチケータ―はこのままではお父さんは絶対に地獄に行きます、私は息子ですからお父さんを守らないといけない、と考えました。

しかし、あなたのやり方は非道徳的で良くないですと直接的にはお父さんに言えませんね。ナチケータ―は少し間接的な言い方で言いました、「お父さん、私もあなたの富でしょう、息子ですから。あなたは私をどなたにあげますか（布施しますか）」と。

息子もお父さんの富です。ヴィッシュワジット・ヤッギャーの条件は「あなたのすべての富をあげないといけない」ですから、ナチケータ―は「あなたの富である私をどなたにあげますか」と聞きました。しかしその質問は普通ではないですね。

息子からその種類の話を聞くのは、お父さんもお母さんも好きではないですね。そのように質問する息子はとてもいたずらっ子のようです。それでお父さんは何も答えませんでした。答えるのを避けていました（笑い）。

ナチケーターはまた「お父さん、私をどなたにあげますか」と聞きました。お父さんは答えるのを避け続けていました。そしてまた繰り返し同じ質問をされてお父さんは怒りました。

お母さん、お父さんが息子、娘にとても怒りますとそのときとても悪い言葉を使うことがありますね。本当の意味で言っているわけではないですが怒って口から悪い言葉が出ることがあります。

例えば、お父さんは怒って「私はあなたを死神にあげます」と言います。喧嘩のときにその言葉を使いますね、「あなた死んで」、「死ね」（笑い）。私はインドの田舎の女性たちが喧嘩すると悪い言葉を使っているのを見聞きした経験がたくさんあります（笑い）。

ナチケーターのお父さんは怒って言っています、「私はあなたを死神にあげます」と。「死神にあげる」の意味は何ですか。「死んでください」と一緒ではないですか。死神にあげるは死んでくださいの意味です。

そのときナチケーターは考えました。いろいろな種類の息子がいます。良い種類の息子、まあまあ良い、悪い、とても悪い。しかし私はとても悪い息子ではないです。私は一番良くなくてもミドルクラス（真ん中）ではあるはずです。それなのに、どうしてお父さんは怒ってその言葉を私に言ったのでしょうか。

しかし、ナチケーターは仕方ないと思いました。お父さんは私にそう言いましたから私は従わないといけないと思いました。「従わないといけない」の意味は「私は死神の場所に行きます」です。どのように行ったのか我々は知らないですね。新幹線、飛行機、バスでしょうか、車でしょうか（笑い）。歩いてでしょうか、それはわかりませんが行きました。

行ってみると死神は留守でした。死神がどこに行ったのかはわかりません。親戚のところへ行っていたのかもしれませんが（笑い）いなかった。お父さんはナチケーターを死神にあげましたから、ナチケーターは死神に会わないといけないですね。

それで待っていました、３日間ずっと。死神は地獄の王様です。死神には奥さんも召使もいましたからとても若い人（ナチケーター）が火のように現れたのを彼らは見ていました。ナチケーターの身体は輝いていました。それはブラフミンの息子ですから、どうぞ休んでください、食べてくださいと応接しました。

しかし、ヤマ（死神）が来るまで何も食べない、飲まない、休まないで待っていました。３日間くらい後にヤマは現れました。それで召使は「火のようなその若いブラフミンが３日前くらいに来てあなたをずっと待っていました。是非すぐに行って喜ばせてください。そうしないとあなたのすべてのものがなくなります」と言いました。

その後、ヤマは何をしたでしょうか。それは次のクラスで話します。物語の続きを聞きたくなりましたか？

以上